

I-P-129 視床下部性肥満を伴う2型糖尿病に対し胃スリーブ手術およびリラグルチドで血糖コントロールされた頭蓋咽頭腫の一例

秋山 義隆^{1,3}, 的場 玲恵¹, 坂下 杏奈¹, 山崎悠理子¹, 梅原 敏弘¹,
大竹 啓之¹, 森田 智子¹, 皆川 真哉¹, 矢澤麻佐子¹, 和田 誠基¹,
大村 栄治¹, 荒川 浩², 松田 昌文¹

埼玉医科大学総合医療センター内分泌糖尿病内科¹, 埼玉医科大学総合医療センター小児科², 河北総合病院³

症例：23歳男性。現病歴：4歳時に頭蓋咽頭腫全摘術後、汎下垂機能低下症・中枢性尿崩症発症。14歳以後腫瘍再発・再手術を繰り返す。15歳頃から体重増加、18歳時（体重101kg）2型糖尿病と診断され α -GI, DPP-4阻害薬開始。19歳時 HbA1c 8.6%と上昇し当科紹介受診。リラグルチド、グリメピリド0.5mgにてHbA1c 5%台に改善したがHbA1c 9%台となりインスリン併用開始。22歳時 腫瘍再発、亜全摘術後に脳梗塞発症。肥満・糖尿病の根本治療が必要と考えられ胃スリーブ手術施行。術後Drug FreeでHbA1c 5%台。退院3カ月後増悪しインスリン・リラグルチド再導入。現在リラグルチドのみでHbA1c 6%台で経過中。考察：視床下部性肥満を伴う2型糖尿病の治療として胃スリーブ手術+リラグルチドの有効性が示唆された。

II-P-316 2型糖尿病患者におけるデュラグルチド投与前後の臨床管理指標と血管指標（AVI, API）の検討

大竹 啓之, 的場 玲恵, 坂下 杏奈, 山崎悠理子, 梅原 敏弘,
皆川 真哉, 松田 昌文

埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科

【目的】2型糖尿病患者でデュラグルチド投与前後にPasasa[®]を用いて中心動脈の動脈硬化度を示す血管指標AVI (Arterial Velocity pulse Index) と末梢動脈の動脈硬化度を示す血管指標API (Arterial Pressure volume Index) の変化を比較検討した。

【方法】デュラグルチド投与22例で治療前後の血管指標AVIとAPIを測定し後方視的に比較検討をした。

【結果】投与1ヶ月後、HbA1cは1.4%の有意な改善を認め(P=0.015)、収縮期血圧は9 mmHg有意に低下した(P=0.006)。AVIは 25.1 ± 7.8 から 24.2 ± 6.9 と改善傾向で、APIは 31.2 ± 6.4 から 26.5 ± 6.8 と4.7の有意な改善を認めた(P=0.0001)。

I-P-234 川越市における糖尿病に関わる医科歯科連携の試みに関して 第3報

望月 司¹, 皆川 真哉², 松田 昌文³, 廣瀬 哲也², 中野 文夫¹,
吉川 賢², 河合 裕直¹, 八木 裕太¹, 深井 智子⁴, 竹下 玲⁴,
草間 薫⁴

(一社)川越市歯科医師会¹, (一社)川越市医師会², 埼玉医科大学総合医療センター³, 明海大学⁴

＜目的＞地域住民の健康増進を目的として、『糖尿病に関わる歯科医科連携の会』を、2015年度に発足させた。2018年の本会調査による医科・歯科協力医院間からのデータ解析の内容を報告する。＜方法＞各医療施設での糖尿病患者データ(糖尿病患者：年齢・性別・HbA1c(%)・Cr・eGFR・尿アルブミン指数mg/g)に、歯科疾患実態調査の質問項目に基づいて調査し、データを集積した(2018年×月×日～×月×日)。その後、非糖尿病患者の調査を無作為に実施(2018年11月4日～2018年11月10日)し、前述のデータと合わせて検討を加えた。本研究は明海大学歯学部倫理委員会の承認を得ている。また、全ての被験者の同意書を取得した。また、本内容に相反する利害関係はない。＜結果＞糖尿病患者264名から集積できたデータと非糖尿病患者84名のデータ